

Contact: 広報担当(マーケティング部)
Tel: 03-5411-3790
E-mail: Tokyo-RIJ@russell.com

ラッセル・インベストメント株式会社
東京都港区赤坂 7-3-37 プラス・カナダ
www.russell.com

発信日: 2008年6月30日

一部ベンチマークへの集中が継続する一方、 顔ぶれの増加に多様化の兆し

(『2008年ラッセル株式ベンチマーク調査』より)

このたびラッセル・インベストメント株式会社は、国内機関投資家向け運用商品のベンチマーク利用動向に関する調査を実施しました。今回の調査は、2006年にわが国で初めて行われた第1回調査に続く、第2回目となります。

今回の第2回調査では、国内株式に加えて外国株式についても調査の対象としました。MSCIが昨年从今年5月末にかけて行った大幅な模様替えを契機に、他のインデックス・ベンダーとの競争が加熱する中、今後動きが出てくるかも知れない外国株式のベンチマーク再選定を先取りして、まずは現状を把握しておくことが調査を開始した狙いです。また、前回2006年調査では海外に所在する運用機関にも回答を依頼しましたが、今回は国内に所在する運用機関のみを依頼先としました。前回調査に続き今回も運用機関の方々のご理解とご協力を得て、73社中59社と8割を超える回答をいただきました。

調査内容は、国内機関投資家向けに運用を行っている国内株式、外国株式についての2008年3月末および2007年3月末における各ベンチマーク別の運用資産額です。ただし公募投信およびETFは除き、年金が行う自家運用の資産は含みます。回答にあたっては、パッシブ運用とアクティブ運用に分けて運用資産額の記入をお願いしました。

調査結果の概要は以下の通りです。

【全体概要】—— 外国株式ではパッシブが過半

今回の調査における回答運用資産額は、国内株式が約41兆4千億円、外国株式が約28兆9千億円で、両者の比率は59:41であった。この比率はわが国の企業年全体の比率である60:40(2007年3月末、企業年金連合会調べ)とほぼ等しい。

国内株式の内訳は、パッシブ運用が約19兆2千億円、アクティブ運用が約22兆2千億円で、パッシブ対アクティブ比率は46:54となった。これに対して外国株式の内訳は、パッシブ運用が約16兆8千億円、アクティブ運用が約12兆1千億円であり、両者の比率は58:42と、国内株式と比較してパッシブ運用の比率が高めになった。

企業年金の資産運用では、国内株式と比べて、外国株式の運用においてアクティブ運用機関がベンチマークを上回るパフォーマンスを獲得するのに苦心しており、そうした状況が今回の調査の回答運用資産額に影響している可能性がある。

【国内株式】——「ベンチマークなし」の増加も含めて多様化の兆し

依然として TOPIX への集中度が高いが、今回の調査から国内株式のベンチマーク動向について、次のようなことも観察された。

- 特にアクティブ運用のベンチマークとして MSCI JAPAN GROWTH、東証二部総合、FTSE GWA、ラッセル野村中小型グロースといったインデックスが新たに登場しており、ベンチマークの多様化の兆候は確認された。
- 「ベンチマークなし」が増加し、約 1 兆 2 千億円と運用資産額としては、第 3 位の位置にある。2005 年からの推移で見ると、「ベンチマークなし」の構成割合はむしろ低下傾向にあったが、2008 年に大きく伸びる結果となっている。昨年の市場変調を背景としたオルタナティブ投資の隆盛を反映した動きとみることもできる。
- ただし、スタイル・ベンチマーク全体の比率は 4% 強の水準からほとんど変化しておらず、スタイル運用が進んでいるとは断言し難い。

【外国株式】——エマージングが増加

MSCI KOKUSAI の比率が高く、特にパッシブ運用においては、95% 超の構成割合を占め、ほぼ寡占の状況にある。ただし、外国株式ならではの地域特化という切り口が加わり、ベンチマークの利用状況は以下のとおり、非常に多様化している。

- ベンチマークの顔ぶれは、35 種類以上と国内株式以上に多彩なもの。2007 年との比較においても、FTSE World Developed、Russell 3000® Value、S&P/Citigroup BMI Emerging Markets と 3 種類の新しいインデックスが採用されている。
- 地域特化は、全体の 8.74% で前年比から約 0.5% 減だが、地域別にみるとエマージングを対象としたベンチマークでの運用資産額は伸びている。
- 外国株式においては、世界を対象とするか、地域特化かという 2 軸となっており、スタイル・ベンチマークの採用は、ごく限られたものに留まっている。

詳細は、「2008 年ラッセル株式ベンチマーク調査」レポートをご覧ください。

ラッセル・インベストメントについて

ラッセル・インベストメントは、現在世界 47 カ国において、年金、金融機関および個人投資家など様々な投資家の皆様を対象に総合的な資産運用ソリューションを提供しています。グローバルに行う運用会社調査をもとに、資産運用、オルタナティブ投資、確定拠出年金サービス、資産運用コンサルティング、売買執行管理、株式インデックスの開発など幅広く業務を行っており、現在当グループが提供するファンドの運用資産総額は約 21 兆円*となっています。グループの創立は 1936 年。米国ワシントン州タコマを本拠地とし、米国最大手の個人生命保険会社であるノースウェスタン・ミューチュアル・ライフ・インシュアランスの子会社です。

日本においては 1986 年に東京オフィスを開業。現在、ラッセル・インベストメント株式会社を通じて各種サービスを提供しています。詳しくは www.russell.com/jpii をご覧ください。

(* 2008 年 3 月末現在)

ラッセル野村日本株インデックスについて

「ラッセル野村日本株インデックス」は、1995年にラッセル・インベストメントと野村証券によって開発された株式市場インデックスです。東証一部、大証、名証、東証マザーズ、大証ヘラクレス、JASDAQなどの全上場銘柄を広く網羅しており、浮動株修正時価総額で約98%を代表する「Russell/Nomura Total Market インデックス」を中心に、大型/小型といった規模別や、グロース/バリューの投資スタイル別に26種類のサブインデックスが含まれます。インデックスの構成銘柄は、各銘柄の浮動株修正時価総額による公平かつ完全なランキングに基づいて決定されており、年一回12月第一営業日に構成銘柄の定期入れ替えが実施されます。

Copyright ©2008. Russell Investments. All rights reserved. ラッセル・インベストメントは世界中の拠点を通じて事業を展開しています。「ラッセル・インベストメントグループ」、「ラッセル・インベストメント」および「ラッセル」は、フランク・ラッセル・カンパニーおよびその子会社等の総称です。当資料は、当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その情報の正確性や完全性についてこれを保証するものではありません。当資料は、一般的な情報の提供を目的としており、特定の運用商品の推奨等の投資勧誘を目的としたものではありません。当社による事前の書面による許可がない限り、資料の全部または一部の複製、転用、配布はいかなる形式においてもご遠慮下さい。